

# これからもやる これも消費者教育



社会が急激に変化する中で、学校に行きづらい、社会に出づらい子ども・若者が増えています。消費生活においてもデジタル化が進み、商品購入をはじめ消費生活に関して多様な選択肢が用意されています。便利になる一方でその変化が急激で複雑すぎて、子どもや若者の中には、不安が高まり、買い物がしづらい状況が起こっているのではないかと考えます。子どもたちが正しく理解し、自ら判断しながら、安心して楽しく消費生活を送っていくために、幼児期からの消費者教育を通して身に付ける力は、子どもたちが予測不可能な時代を生き抜いていくために必要な力だと考えます。



近江八幡市これも消費者教育プロジェクト委員会  
委員長 富江康子

## メンバー

- 教育委員会事務局次長 富江康子
- 教育委員会事務局学校教育課指導主事 安達智一
- 老蘇小学校校長 林崎謙造
- 金田小学校教頭 前川順子
- 八幡西中学校教諭 豆村楽九
- 安土中学校教諭 奥田拓司
- 八幡小学校教諭 栗田佳歩
- 桐原小学校教諭 林大貴
- 八幡幼稚園教諭 廣田忠史
- 武佐こども園教諭 大橋朱里
- 消費者教育コーディネーター 甲津晃弘
- <事務局>
- 消費生活センター長 泉野高儀
- 消費生活センター課長補佐 片山香織
- 消費生活センター主査 辻仁美

## 2年間の取組

2023年度

委員会立ち上げ

「未来志向で  
やろう！」  
「保育園や幼稚園から  
中学校までつながるな…」



モデル校武佐小学校の  
研究会に参加！！

「自分の生活に  
つけてたよ！」  
「前のゲーム体験が  
効果的やった」



消費者教育フェスタ  
に参加

「どんな人が来て  
くれるのかな？」



2024年度

委員による消費者教育の授業等の実践



フェスタにはいろんな  
関係者が応援に来てく  
れました！



運営支援：公益財団法人消費者教育支援センター

# わたしの “これも消費者教育”

## 近江八幡市で取り組む消費者教育 “育みたい資質・能力”

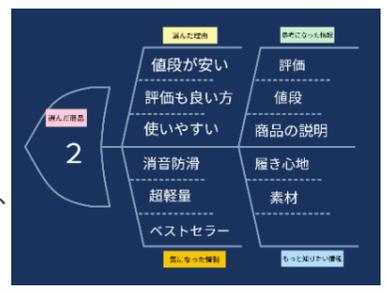
- 知識及び技能
  - ① 消費がもつ影響への理解
  - ② 情報社会のルールや情報モラルへの理解
  - ③ 商品等の安全への理解
  - ④ 危険を回避する方法への理解
  - ⑤ 契約等への理解
- 思考力・判断力・表現力など
  - ⑥ 消費生活情報に対して批判的に思考する力
  - ⑦ 適切に意思決定をする力
  - ⑧ 処理した消費生活情報を伝え合う力
- 学びに向かう力、人間性など
  - ⑨ 持続可能な消費を実践しようとする事
  - ⑩ これからの生活を設計・管理しようとする事
  - ⑪ 他者と協働して解決に向け行動しようとする事



老蘇小学校ではこの3年間「SDGsこども見守り隊」に取り組んできました。頻発している高齢者を狙った詐欺を他人事とせず、子どもたちが地域の一員として何か少しでも役立てることを期待しています。他人事を自分事としてとらえられる消費者教育を今後も継続していければと考えています。消費者教育は子どもたちと地域とのつながりを生み出します。授業に際して地域の方々に大変お世話になり本当にありがとうございました。  
老蘇小学校校長 林崎謙造

「困ったことがあったら声かけてね」

中学校家庭科の中で、「考え、啓発できる消費者」を目指して授業をつくりました。商品選択における多様な考え方やエシカルな消費行動、消費トラブルの防止などを生徒が第三者にむけて動画やリーフレットなどで啓発活動を行う学習を行いました。来年度の3年生、2年生でも引き続き、ブラッシュアップしてこの取組を続けていく予定です。  
八幡西中学校教諭 豆村楽九



「選ぶとき欲しい情報は？」



「解決策は？」  
「募金して助けてい！」

小学6年生国語科の「発信しよう、私たちのSDGs」でSDGsの17の目標について各自がテーマを決めて情報を集めスライド作成をすることで、世界には人権や福祉、環境や資源、エネルギーなど様々な問題が存在していることに気づき、消費者の一員として今後どのようなことをすると解決につながるのか考えました。ゴール12「つくる責任・つかう責任」から、消費者の立場で何ができるのか、主体的に行動できる力を身につけさせていきたいです。  
八幡小学校教諭 栗田佳歩

当初は「消費者教育は難しそうだな」と思っていたのですが「ものを大事にする」ことや「自分たちで収穫したものをおいしく味わう」ことなど、実はとても身近なものであることを感じました。子どもたちにも日頃から伝えていくことで「先生、これもっと使えそうやで」「もったいないなあ」といった言葉が聞こえてくるようになりました。自分たちの普段の行動を意識することの大事さを改めて学ぶことができました。  
八幡幼稚園教諭 廣田忠史



「カレーのお肉ください！」



「これも消費者教育」というテーマで振り返ると、身の回りの選択がすべて消費者としての行動に繋がっていることに改めて気付きました。たとえば、買い物をするとき商品の価格や品質、環境への影響を考えることが大切だと学びました。また、情報を正しく判断し、無駄を省くことが消費者の責任だと感じました。これからの、日常生活の中で意識的に消費者教育を実践していきたいです。  
桐原小学校教諭 林大貴

「学校の周りのごみを調べたよ！」



消費者教育で、人や社会や未来を大切に、誰もが将来にわたって安全に暮らせる社会づくりをめざせると思います。「売り手よし、買い手よし、世間よし」に「作り手よし」と「未来よし」も加えるとわかりやすくなります。道徳や人権教育などと同様に、いつも頭の隅に消費者教育を忘れずにいたいです。  
金田小学校教頭 前川順子

「これください」「はいどうぞ」

安土中学校では中学3年生に向けて滋賀県司法書士会の方を講師として「消費者教育」について講演をお願いしました。18歳になるまであと3年となる中学生に身近な法、契約、トラブルなどを寸劇やクイズを通して分かりやすく解説してくださいました。消費者としての権利や責任について深く考えられたことで子どもたちの意識が高まり、消費者としての自覚を持つことの重要性を理解する良い機会となりました。  
安土中学校教諭 奥田拓司



「この契約はやめられるかな？」



「何の動物が好き？」

「消費者教育」というと難しく感じがちでしたが、園生活の中でも、物を無駄なく使い大切にしようとする事、社会生活に興味をもち自ら関わっていきこうとする事等、様々な芽生えの姿がありました。保育者が消費者教育の視点をもって幼児の姿を見ながら、発達段階に合わせて声掛けをしたり、幼児の気づきを友達と共有したりすることが大切であると気づくことができました。  
武佐こども園教諭 大橋朱里

「大人の消費者としての学びや意識が子どもの消費者としての基盤となる」という言葉が印象的でした。消費者教育の充実を図るために、園や学校は様々な背景（消費者体験）の異なる子どもが集まっていることを踏まえて、日々の保育や授業を計画していくことが大切です。就学前での遊びが小学校、中学校の学びへ、そして、その先にどのように繋がっていくのかの見通しをもって実践していくことが、子どもたちの消費者としての意識を養うことにつながると感じました。

近江八幡市教育委員会学校教育課 安達智一

保・幼・こども園における遊びの中での消費者意識の芽生え。小学校における生活科などでの消費者意識の醸成や総合的な学習・教科などにおける連続した消費者学習。中学校における社会科・家庭科・総合的な学習での専門的な消費者学習と消費行動の実践。この縦のつながりが『ウェルビーイングにつながる近江八幡の消費者教育』です!!「探究的な学び」ができる消費者教育。皆さんで盛り上げていきましょう。  
消費者教育コーディネーター 甲津晃弘



「この教材つかえるかな？」

